

2024 Annual POLIS Conference

2024 Annual POLIS Conference

蛸子 哲¹ 石神孝裕² 木全淳平³ 牧村和彦⁴

Akira EBIKO, Takahiro ISHIGAMI, Junpei KIMATA, and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

POLIS Networkは、欧州のPOLIS（ギリシア語の「都市」）間で、都市交通の課題に対処するための情報共有・政策協力・共同研究等を通じ、各都市の課題に対処するための能力を高めるとともに、政策提言を通じ、都市の声を国際的な政策形成に反映することを目指す国際組織で、2025年4月時点でEUを中心に約100の都市、地域、交通・研究機関が加盟している。

Annual POLIS Conferenceは、POLIS Networkの年度活動報告、運営方針を定める総会と合わせ、都市と交通政策、持続可能な都市開発、モビリティ（移動手段）に関する情報交換を行う国際会議であり、2024年度の会議は2024年11月27日～28日に、ドイツのカールスルーエで開催された。本稿ではその概要を報告する。

2 2024 Annual POLIS Conferenceの概要

(1) プログラム

2024 Annual POLIS Conferenceは、2日間の日程で開催され、プログラムは、テーマ別にプレゼンテーションと質疑が交わされるパラレルセッションを中心に構成されていた（(3)に詳述）。また、パラレルセッションと重ならない時間で、初日にマルチモーダル交通の未来についての全体セッション（プレナリーセッション）、2日目には最終プログラムとして、持続可能なモビリティへの今後の展望に関する全体セッション（クロージングセッション）が行われた。

(2) 全体セッション

プレナリーセッションでは、「Fix that Mix!」のタイトルで、フィリップ・ローデ氏（London School of Economics）の基調講演の他、欧州都市の交通政策部局、交通事業者、欧州サイクリスト連盟、コンサルティング企業等の代表者によるパネルディスカッションが行われた。

メインテーマとして、持続可能な都市モビリティの未来に向けたマルチモーダルなアプローチの重要性について議論され、異なる交通手段のシームレスな統合が、持続可能な都市モビリティの実現に不可欠である点が、いずれの登壇者からも強調されていた。

行政だけではなく多様な関係者の観点から、熱のこもった議論が交わされており、持続可能なモビリティの実現には、公共部門と民間企業の協力が不可欠であるとともに、マルチモーダルシステムの基盤として公共交通の強化と他の交通手段との連携が求められる点が繰り返し唱えられていた点が印象的であった。

また、司会者も含め登壇者6人中半数が女性で、20代後半からベテランの年齢まで、多様な属性の方が同じ目線で議論している点も、強く印象に残っている。

(3) パラレルセッション

パラレルセッションは、会議開催の2日間で8会場に分かれ、各90分のセッションを4セット（1セット5本のプレゼンテーション）、合計160本の発表が行われた。

プレゼンターの約6割は行政の都市・交通政策担当者で、約3割は民間事業者（交通事業者、コンサルタント、データベンダー等）、1割程度が研究機関、学識者となっており、自治体担当者間での既往の取り組みの報告会と



写真－1 パネルディスカッションの様子

¹ 都市地域・環境部門 研究員 博士（経済学） ² 都市地域・環境部門 部門長兼グループマネージャー 博士（工学）
³ 都市地域・環境部門 研究員 ⁴ 業務執行理事、研究本部企画戦略部長 博士（工学）
IBS Annual Report 研究活動報告 2025



写真-2 パラレルセッション会場

いった内容ではなく、多くのプレゼンターが施策や開発技術の今後の展望、横展開の可能性を念頭に報告し、情報を交換する場となっていた。

アジア系の参加者のグループは少ないためか、パラレルセッションの会場で参加者から声をかけられることも多く、歓迎されている雰囲気を感じた。

当研究所の参加者は、地域の関係者の共創によるマルチモーダルシステムやデータガバナンス、アクティブモビリティの実装等のテーマを中心にセッションを選定して、参加した。以下では、印象に残った報告について概要を紹介する。

a) オリンピック (PARIS 2024) 期間中の官民データ連携による MaaS 展開

PARIS 2024 期間中、州 (イルドフランスモビリティ) が共通のデータ基盤を構築して、アクティブモビリティを含む様々な交通モードの情報を提供する MaaS を展開した。各交通モードの情報を個別の民間事業者が出すのではなく、行政が基盤を構築した上で、官民が連携して同一の精度、品質の情報を提供することが MaaS 展開で重要となることが報告されていた。

b) 都市活動データの健康への活用、標準化

スペインの Healty Cities 社は、SUMP に健康指標を統合した実践的なガイドラインを作成し、具体的な健康改善の戦略計画の策定を支援している。

また、ダッシュボード型ツール「Healthy City Generator」が無償で提供されており、都市の特性や政策方針、健康上の優先事項等の項目を設定することで、30 の健康指標を視覚化し、都市計画による健康コストの削減効果を試算できることが報告されていた。

c) 欧州都市における新たな財源の確保の工夫

地域全体のモビリティ・サービスを維持していくために、財政資金を強化する手法として、スイスの宿泊税や駅内の商業売上、フランスなどのカーボンプレジットや企業負担金、NY やロンドンなどの混雑課金等のケースワークが体系的に紹介されていた。

3 おわりに

2024 Annual POLIS Conference では、クロージングセッションにおいて、模範的なモビリティ施策を行った都市として、ストックホルム市に「POLIS Award」が授与された。

受賞の理由は、物流と廃棄物収集の統合等の、革新的な都市物流ソリューションを展開した点であるが、1996 年からの環境ゾーンの導入、2007 年の混雑税の導入等、早期から継続的に交通渋滞の緩和と環境負荷の低減に取り組み続けた点も、高く評価されていた。

今回の会議に参加し、欧州においては、このストックホルム市の受賞が表す様に、一貫した政策ビジョンに基づき継続的な都市交通政策を体現することが重要と考えられており、様々な場面でそれを感じられたことが収穫の一つだったと思う。

POLIS Network の様な組織や場が、このような考えを共通認識として根付かせるのに寄与しているのではないかと感じた。なお、次年度の会議は 2025 年 11 月にオランダ・ユトレヒト市で開催予定であることも付して、本稿の結びとしたい。

参考文献

- 1) 2024 Annual POLIS Conference.
<https://www.POLISnetwork.eu/2024-annual-POLIS-conference/>
- 2) Aurélien, Belhocine (2024) . Mobility in Île-de-France during the Olympic and Paralympic Games. Annual POLIS Conference 2024
- 3) Leon Legeland (2024) . Health cities. Annual POLIS Conference 2024
- 4) Mickaël Tauvel (2024) . RETHINKING THE MOBILITY FUNDING EQUATION. Annual POLIS Conference 2024